

会議議事録

会議名	2024年度第1回福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	介護福祉科
開催日時	2024年8月9日(金) 14:30~16:30
場所	本校1階会議室
出席者 (敬称略)	① 企業等委員：丸山泰一委員(社会福祉法人池上長寿園専門参与)、戸嶋哉寿男委員(杉並定期巡回連絡会代表)(計2名) ② 本校委員：川口拓也(校長)、松田 朗(介護福祉科学科長) 中嶋純也(介護福祉科教員)、榊原幸之(事務局長)、(計4名) ③ オブザーバー：前田律子(副校長) ④ 委員会事務局：川内靖美 (参加者合計8名)
欠席者	渡辺愛子(介護福祉科教員)
配付資料	事前送付：資料1：2024年度福祉分野教育課程編成委員会名簿、資料2：2023年度第2回福祉分野教育課程編成委員会議事録、資料3-1：前回委員会以降の主な経過報告、資料3-2：2023年度就職状況の報告、資料3-3：第36回介護福祉士国家試験受験の報告、資料4：2024年度重点目標と達成するための計画・方法、資料5-1：2024年度介護福祉科学科運営計画・方針、資料5-2：2024年度介護実習予定表、資料6：2024年度教員研修計画・実績(介護福祉科)、資料7：2025年度カリキュラムマップ案
議長	松田学科長
議題等	1. 事務局より今年度委員の確認(資料1) 事務局・川内より今年度委員の確認及び紹介があった。 2. 校長挨拶 川口校長より、今年度は入学定員30名のところ、1名辞退が出て29名でスタートした。ここまでのオープンキャンパスの参加者は昨年の2倍ほどで、今年は外国人留学生の参加が多いと感じている。少子化の中、いろいろな方に来ていただくのはありがたいが、教育や実習をどうやって回していくか、先生方からアドバイスをいただきたい、との挨拶が行われた。 3. 前回委員会議事録の確認(資料2) 議長より確認を求めたところ、特段の意見はなく、個人情報に配慮して公開することが了承された。 4. 2023年度の活動報告等 前回委員会以降の主な経過(資料3-1、3-2、3-3) 松田学科長より資料に基づき説明し、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

- | |
|---|
| <p>5. 2024年度重点目標と達成するための計画・方法（資料4）</p> <p>6. 2024年度学科教育と学科運営（資料5-1：学科運営、資料5-2：介護実習）
松田学科長、中嶋教員より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> <p>7. 2024年度教員研修計画・実績（資料6）
松田学科長より、資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。</p> <p>8. 2025年度カリキュラムマップ案（資料7）
松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> <p>9. 次回日程、その他
次回の日程については、協議の結果、2025年2月28日（金）、14時半開始とすることが了承され、閉会した。</p> |
|---|

以上

2024 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 2023 年度の活動報告

前回委員会以降の主な経過（資料 3-1、3-2、3-3）

○松田学科長より、資料 3-1～3-3 に基づき補足説明が行われた。

2. 学生の状況

(1)退学状況：(2023 年度)

(2)就職内定状況：内定先は特養が一番多く、民間の有料老人ホーム、地域密着型のサービスに行く学生も何人かいた。多くの学生は働きがいを感じて続けている。

3. 2024 年度授業アンケート

・総じて学校全体の平均値と同じか、少し上回っている。

第 36 回介護福祉士国家試験受験の報告

・全国平均の 82.8%とほぼ同じだった。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・退職者が 2 名いるとのことだが、学校として卒業後何年ぐらいまで追うのか。 ・留学生についてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明確には決めていないが、おおむね 1 年間と思っている。 ・奨学金の関係のある留学生については、卒業後 5 年間は追っていく。

5. 2024 年度重点目標と達成するための計画・方法（資料 4）

6. 2024 年度学科教育と学科運営（資料 5-1、5-2、5-3）

○松田学科長より、資料 4 及び 5-1～5-3 に基づき以下の説明が行われた。（ポイントのみ記載）

1. 学科の教育目標及び業界ニーズ

1-1 卒業生像：前年と変わらない。コミュニケーション能力の重要性を痛感している。

1-2 業界の人材ニーズの動向：①変化に適応していくために、学びを止めないで、自分が知らないことに積極的に挑戦すること、②人を大切にできるように自分の中によりどころが持てること、③創造できる資質を磨くことが大切だと受け止めている。

2. 学科運営計画の定性的目標

2-1 学校としての今年度の教育支援活動目標：フィールドワーク、ケーススタディ発表会（2 年生の 12 月）、学園祭への出展、国際福祉機器展など。

2-2 学科が設定する今年度の教育支援活動目標：①チームとして協力し、目標達成に向けた取組ができるように学習活動を展開する。②様々な学習活動の中で合理的配慮について考える時間をつくる。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークはどんな感じでやるのか。 ・コミュニケーションを大事にして、チームでやることを重視しているのはすごくよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループが架空の事例をつくり、別のグループがその事例に基づいて生活支援計画を立てる。その方の意向、心と体の状態に基づき、高田馬場エリアでどのような社会資源を利用できるかを実際に街に出て確認し、具体的な計画をつくる。それをコンテスト形式で発表し、表彰するという形で集中的に取り組んでいる。

3. 学科運営活動の定量的目標

3-1 資格取得目標の設定と結果：

- ・1年生は認知症サポーターの講習、介護福祉士国家試験の模擬試験、2年生は上級救命講習（全員取得）、全国模擬試験（7月）、レクリエーション介護士2級（全員取得）、3回目の模擬試験（11月）

3-2 就職目標の設定と結果：

- ・関心の高い学生は夏休み前から活動が始まっている。多くは、最後の実習が終わるころに動き出すとみている。

3-3 退学率の低減目標と結果：

- ・1年生、2年生とも今のところ退学者は出ていない。

4. カリキュラム点検への取組：年度末までにアンケート調査による点検をしたい。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・定員を超える出願があったが、選考する基準はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生には特にないが、留学生は、ある程度の日本語能力が必要になる。

（介護実習計画）

○中嶋教員より、資料 5-2 に基づき以下の補足説明が行われた。

- ・2年生の夏休みに地域密着の小規模多機能が増えたので、年間で5つの実習が予定されている。
- ・1年生の施設実習は6月19日から28日に行われ、無事終了した。
- ・今年度取り入れた実習支援システムは大きなトラブルはなく、学生は問題なくやれている。
- ・夏休みに入り、今は2年生の介護実習Ⅴ（小規模多機能型居宅介護）が行われている。学生の家の近くに実習先を確保できたので、よかったと思っている。
- ・9月9日から2年生の最後の実習が始まる。（施設実習のみ）
- ・1年生は、2月から第2段階の実習（19日間）を予定している。
- ・2023年度の卒業生は5施設の实習先に就職した。今後も少しずつ実習先を増やして、就職につなげていきたい。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・実習支援システムは、業者が持ち込んできたのか。 ・その費用は、学生の数に比例して上がっているのか。 ・指導者側の感想を聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から導入した。サポートもしてくれる。 ・1人につき2年間で5,000円なので、高くはないと思う。 ・本校は速記の学校なので手書きにこだわっていたが、漢字圏ではない留学生にとって書くという行為は負担が大きいので導入した。今後、現場もデジタル化していくと思うので、入力の方がマッチするのではないか。 ・個人差はあるが、学生の記録の中身をすぐにチェックできるので便利だと思う。

7. 2024年度教員実習計画・実績（資料6）

○松田学科長より、資料6に基づき以下の説明が行われた。

- ・確実に決まっている全国教職員研修会と関東信越ブロック研修会には例年どおり参加する。今後、教員が持っている資格の更新も含めて研修をしていくことになる。外国人留学生関連の研修には積極的に参加していきたい。

8. 2025年度カリキュラムマップ案（資料7）

○松田学科長より、資料7に基づき以下の説明が行われた。

- ・科目の中身に関しては2024年度と大きく変わるものはない。
- ・1年生で学ぶ量が多いので、負担の軽減、学びやすさを考慮して、学ぶ時期を振り分けたい。資料はその一つの案である。
- ・カリキュラムの各課題について学生に5つの基準で自己評価をしてもらい、自分自身を客観的、かつ肯定的に捉える目を育てていくようにしている。

○質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と先生方の評価の差はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく言えば自己肯定感が高く、シビアに見ると、課題を深く理解できていないところはある。1年生の終わりと2年生の終わりでは、自己評価がかなり上がっている。成長できた実感がある程度伴っているからだと思うので、ここは大切にしたい。実際にコミュニケーション能力が上がっている学生が何人かいる。

・コミュニケーションは現場でも大きな課題だが、その能力が上がるきっかけ、教育上の工夫はあるか。

・現場で求められる人材、養成校で身につけてほしいことなど、教育に対するリクエストがあれば伺いたい。

・これからは、中学からパソコンを使い、デジタル教材で学んでいる子が入学してくる。現場でもそういう認識に立って準備しているようなことはあるか。

・本校以外にも養成施設とのつながりがあると思うが、現場から見て本校の学生の特徴、強み・弱みがあれば教えてほしい。

・中嶋先生の授業を見ると、安心できる空間を意識してつくっている。思ったことが言えること、発表の場であえてチャレンジな課題を与え、成長につながる失敗を経験する機会をつくるなどである。

・オープンキャンパスの手伝いをしてくれる学生は、コミュニケーション能力が格段に上がる。

・肯定的に捉える子は、それを学びに変えていけるので成長速度が速い。自己評価制度を使ってそこにチャレンジしているのはいいことだと思う。

・コミュニケーション能力と合わせて、やれない理由を考えるのではなく、やれる方法を考えるような人を育ててほしい。

・我々は法令や制度上難しいと考えがちだが、若い子のチャレンジはサポートしていきたい。

・今は何でも ICT を使って共有しているので、それに慣れていることは大事だが、簡潔な文章が書けるよう日本語能力も高めてほしい。

・新しく入ってくる職員はパソコンが使えるのは当たり前の話だが、システムについては現場のほうが遅れている。DX 専門の部署は作りやすく、ベンダー任せになるが、職員の中で分かっている人がいないとうまくいかない。人材作りに苦勞している。

・学生に対してすごく優しく、丁寧に接している学校だと思う。逆に言うと、強くない。世間に出たとき、もまれ強くてしたたかな部分がない感じがする。これは専門学校と大学の違いなのかとも思う。大学は自ら学ぼうとしないと、すぐ切り捨てられる。

・他校との比較はできないが、すごく親身な学校で、ただカリキュラムをこなすのではなく、教えることにこだわっているところはよいと思っている。

・人口が減る上に、今の高校生の1割は通信制高校やサポート校と言われるところに通っており、より受け身の学生が増える可能性がある。その中でいかにこの分野に目を向けてくれる人を受け入れ、社会に出していくかが今突きつけられている課題である。

・介護を3年ぐらいやってみて、全く違うコースに変わるという傾向はあるか。

・現場も同じで、介護の仕事の魅力を発信しなければいけないと思うが、単なるパフォーマンスではなく、介護の喜びをいかに発信するか、その見せ方に悩んでいる。

・卒業生の動向を見ていると、直近の5年間ぐらいでは他の業種に行く人はあまりいない。養成校に入るときに迷うことはあるが、本校の学生は自分の中で整理をつけて進路を決めているので、介護の仕事をしている人が多い。

以上